

厚生・文教常任委員会行政調査報告書

令和4年12月24日

岩倉市議会議長 伊藤隆信 様

厚生・文教常任委員会

委員長 谷 平 敬 子

副委員長 須 藤 智 子

- 1 実施日 令和4年10月26日（水）・27日（木）
- 2 調査先 福井県鯖江市及びあわら市
- 3 出席委員 委員長：谷平敬子 副委員長：須藤智子
委員：片岡健一郎 委員：宮川 隆 委員：関戸郁文
委員：堀 巖 委員：木村冬樹
事務局随行 統括主査 寺澤顕

4 調査事項

①『^{めいく}眼育さばえプロジェクト』

日時：令和4年10月26日（水）午後1時30分～3時30分

場所：さばえSDGs推進センター

○眼育さばえプロジェクトの概要について

目の異常は、子どもは気づかないことが多く、周りの大人が気づいてあげるととが大切であるため、目の大切さの重要性を認識していただくための周知活動を推進する。

○眼育さばえプロジェクトの特色ある個別事業について

- ・3歳児健診での屈折検査機器導入
- ・4歳児視力検査を保育所等で実施
- ・就学前健康視力検査の単独実施

○眼育さばえプロジェクト実施に至った背景

眼鏡フレーム国内シェア約9割を占める「めがねのまち、さばえ」から眼育を発信することで、幼児期の視力不良の早期発見や目の健康推進だけでなく、眼鏡・レンズの大切さも知っていただくことを目的に実施。

○事業による市民の目の健康についての効果

- ・ 中学校へのビジョントレーニング機器の導入
- ・ めがねのまちさばえの目の体操普及
- ・ 目のストレス測定器（アコモレフ2）公立丹南病院へ導入
- ・ 各保育所、幼稚園での眼育計画づくり
- ・ 高齢者向け、目の健康づくり教室
- ・ 子どもから高齢者まで、目の健康への意識向上

○大学との連携による効果について

持続可能な開発目標 SDG s を推進している本市において、令和元年12月、国連永久大使のアルワンルル・チャウドリー氏が来鯖。私立あおいこども園にて、「眼育」の取組を視察され、新潟福祉大学の石井教授をはじめ、学生3人が、4歳児に「見る力」を育てるゲームを実施するなど、活動内容が、SDG s 目標4、「質の高い教育をみんなに」の実現や女性活躍に重点を置いていることなど、チャウドリー氏から高評価をいただきました。

○プロジェクトの現状課題と今後の展望について

現状課題

- ・ 新型コロナ感染拡大による検査体制の見直し
- ・ 教育現場での意識高揚
- ・ 医学的根拠に基づくレンズ効果の啓発

今後の展開

- ・ 大学、民間企業との連携による事業展開
- ・ 近視予防に向けた新たな産業の創出
- ・ 教育現場への眼育教育

所感

鯖江駅を降りると、すぐにメガネのマークが、目に飛び込んできました。ベンチをはじめ、至るところにメガネのデザインで溢れ、感動しました。「めがねのまち さばえ」から眼育を発信することは、幼児期の目の健康推進だけでなく眼鏡、レンズの大切さを知って頂くことにつながるとしている。目の体操普及や高齢者向けの健康づくり教室など、子どもから高齢者まで目の健康づくりを推進し、目の健康への意識向上を図っている。さらに、近視予防に向けた新たな産業の創出も目指している。岩倉市においても、目の屈折検査機器を導入し幼児期の視力不良の早期発見、治療につなげている。さらに、子どもから高齢者まで、パソコンやスマホ等で、疲れた目を癒やすための体操や筋力強化を行い、目の健康づくりを推進していただきたい。

②『あわら市の学校教育について・2学期制の導入について』

日時：令和4年10月27日（木）午前9時30分～11時30分

場所：あわら市役所委員会室

- 2学期制導入に至る背景
 - ・授業時数の確保と学期末の教員業務の逼迫の軽減
 - ・児童生徒の学びの連続性と意欲換気
- 2学期制導入による児童への効果
 - ・2学期制になり学校生活（授業や行事）にゆとりができた。
 - ・2学期制になり、夏休みは計画的に課題に取り組むことができた。
- 2学期制導入による学校への効果
 - ・学校や学年の行事に積極的に取り組むことができた。
 - ・ゆとりを持って各行事に取り組み、生徒が自主的・実践的な活動が助成できるように工夫した。
- 2学期制導入による父兄からの意見
 - ・テストの回数が減ることは、初めは心配したが、テスト範囲が広がったことで、より計画的に学習するようになった。
 - ・勉強や部活動の集中できるため、メリハリがついた。
- 2学期制の課題について
 - ・坂井市が3学期制のため、テスト期間が異なり、部活動の練習試合が組みにくい。
 - ・2学期制のメリットが保護者や生徒に伝わっていない。
- 学力向上に向けた各種取組について
 - ・確かな学力と探究力の醸成
 - ・問題解決力（引き出す教育）の推進
 - ・中高連携クラスのカリキュラムの充実
 - ・基礎学力の定着
 - ・自立に向けたコミュニケーション力の育成（楽しむ教育）
 - ・読書習慣の向上

所感

学校では、学習指導要領の改訂により学習内容が増加したにもかかわらず、学校5日制により、授業日が年間200日に満たない中で、充実した教育を行うためには、授業時間の確保が重要となっている。しかし、従来の3学期制では、学期末に当たる7月、12月、3月は慌ただしく、落ち

着いて学習に取り組めない状況である。このような課題を解決するために、あわら市では、平成22年度から中学校で2学期制を導入して、30時間程度の授業時間を確保し、平成26年からは、小学校にも導入し授業時間を拡大している。また、学力向上に向けた、10項目の取組により、子ども自身の個性に気づかせ、それを伸ばしていくような「引き出す教育」や子どもたちが知的好奇心や探究心をもって学び自ら進んで「楽しむ教育」を推進し、「ひとりも取りこぼさない」という意識のもと教員が根気強く指導している。岩倉市においても、ひとりひとりの個性を大切にした教育が行われているが、2学期制の導入や、あわら市の学力向上のに向けた取組を参考に、子どもたちに充実した教育を推進していただきたい。